

AXIES2024 RDM部会企画セッション

**研究データ管理は
研究活動をどう促進するか
：趣旨説明**

松原 茂樹

(AXIES RDM部会主査 / 名古屋大学情報基盤センター)



AXIES-RDM部会



体制

ポリシー

DMP

データ人材

即時OA

コアファシ
リティ

データ基盤

研究データマネジメント部会への参加方法

AXIES正会員、賛助会員にご所属の方のうち、研究データマネジメント部会に参加をご希望の方は、以下の情報を事務局（office@axies.jp）宛にお寄せください。

部会名：研究データマネジメント部会

参加希望者の氏名：

所属：

メールアドレス：

<https://rdm.axies.jp/sig/24/>

AXIES 年次大会（RDM部会企画セッション）



2016	全学研究データマネジメント環境の構築に向けて
2017	日本のRDM – 方針策定と情報基盤開発に向けて
2018	RDM環境構築のためのポリシーメイキング
2019	RDMの組織的行動への展開
2020	大学におけるRDM支援体制の構築
2021	大学での組織的RDMフレームワーク – 実践と洗練
2022	大学における研究データガバナンスを考える
2023	RDM推進の学内体制を考える
2024	RDMは研究活動をどう促進するか

学術機関における
研究データ管理に
関する提言

AXIES 大学ICT推進協議会
2019年5月1日

大学における
研究データポリシー
策定のための
ガイドライン

AXIES 大学ICT推進協議会
2021年7月1日

本日の RDM

1. 研究データ管理（RDM）は研究活動をどう促進するか

提案団体名	研究データマネジメント部会
日時	2024/12/10 09:00~10:30
会場	天平ホール

2. 全体会1

12月10日(火)13:30~14:45

4 基調講演1

タイトル: 大学の研究データOA から何を生み出せるのか
講演者: 引原 隆士 氏(京都大学 理事・副学長)

3. 研究データマネジメント

日時	2024/12/10 15:00~16:00
会場	B会場

4. RDM部会ミーティング 16:45-17:45 @2階 E会場 (206)

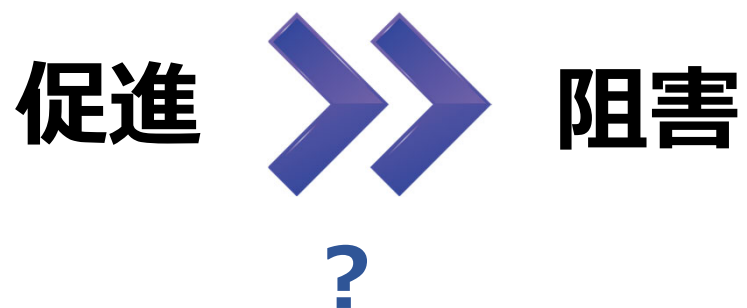
研究データ管理は研究活動をどう促進する？

- “ChatGPT 4o” <https://chatgpt.com/> の回答・・・
 - 研究データ管理は、**研究活動を効率的かつ効果的に**進めるうえで非常に重要であり、以下の点で研究活動を促進することができます。
 1. **データの再利用性の向上** 適切に管理されたデータは、同じ研究グループ内や他の研究者との間で容易に共有・再利用できます。新たな研究やコラボレーションが生まれやすくなります。
 2. **研究効率の向上** 整然としたデータ管理により、必要なデータを迅速に見つけられるため、研究プロセスが効率化します。不要なデータの重複や誤使用を防ぎ、研究の質を向上させます。
 3. **透明性と信頼性の向上** データ管理は研究の透明性を確保し、再現性を高めます。適切な管理と公開は、研究者コミュニティや社会からの信頼を得る重要な要素です。
 4. **研究資金の要件への対応** 多くの研究資金提供機関では、データ管理計画（DMP）の提出を義務付けています。これを適切に行うことで、資金を確保しやすくなります。
 5. **長期的なデータ保存と価値の保護** 適切なデータ保存により、将来の研究や教育活動に利用できるようにすることで、研究データの価値を最大化できます。
 6. **コラボレーションの促進** データ管理は、異分野や異国籍の研究者との連携を容易にし、国際的なプロジェクトの成功を支援します。

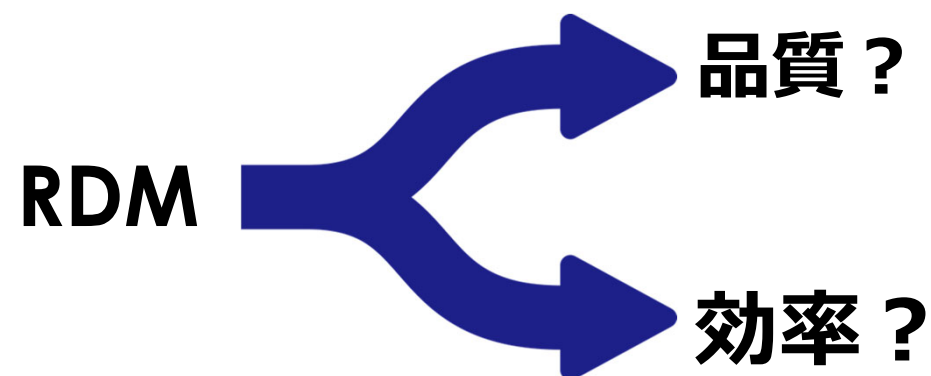
研究データ管理を適切に行うことは、**研究成果の最大化や持続可能な研究活動の基盤**となります。研究者や大学がその**重要性を認識し、適切な体制を整える**ことが、より良い研究活動を促進するカギとなります。

RDMは**研究活動**を**どう**促進するのか？

どれくらい？



どのように？

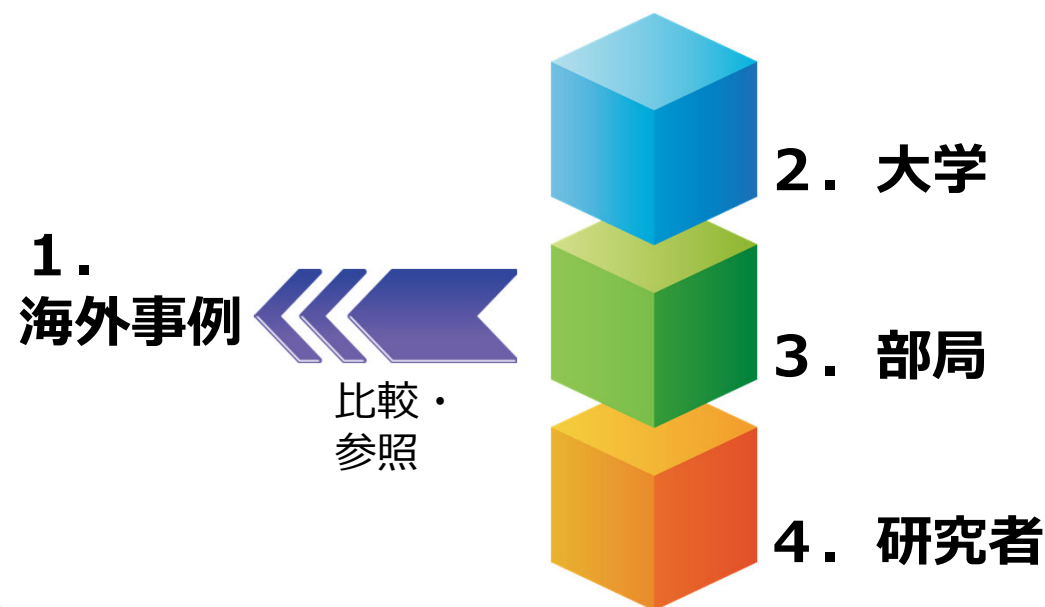


RDM部会企画セッション

(司会) 元木 正和 (東北大学)

- 0. 松原 茂樹 (名古屋大学)
「研究データ管理は研究活動をどう促進するか：趣旨説明」
- 1. **船守 美穂 (国立情報学研究所)**
「先進事例の紹介」
- 2. **中原 康行 (立命館大学)**
「大学的観点の推進と課題」
- 3. **戸所 泰人 (大阪大学)**
「部局的観点：推進と課題」
- 4. **加藤 久明 (大阪大学)**
「研究者観点：推進と課題」

パネルディスカッション：
(モデレータ) 甲斐尚人 (大阪大学)



※時間が許す限り各講演ごとに質疑応答の時間を設けます